

ひろしま さ さ べ か ず こ
広島市 佐々部和子氏所蔵資料 仮目録

広島県立文書館

平成27年(2015)9月

凡 例

1 本目録には、広島市 佐々部和子氏所蔵資料を掲載した。

2 目録の各項目は以下のとおり。

請求番号 本文書群の群番号(200205)と、この項目の記号を組み合わせたものが請求記号になる。

【例】 1 200205 / 1

表 題 資料に原表題のあるものはそのまま採り、ないものは適宜付与し〔 〕書きで表記した。

年 代 資料に記された作成年月日を採用した。

作 成 資料に授受関係のあるものは で結んで表記した。

形 態 資料の形態を記した。

数 量 資料の点数を記した。

3 文書の排列は請求記号順とした。

4 利用の参考のため、本文書群の概要を冒頭に付した。

【文書群概要】

ひろしま さ さ べ か ず こ
広島市 佐々部和子氏所蔵資料 (請求記号 200205)

広島城下播磨屋町の書林，井筒屋忠八郎などが発行した『塵劫^{じんこう}記』

出 所 未詳

出所地名 未詳

分 量 1点

収蔵までの経緯 平成14年(2002)8月24日，所蔵者より寄贈。

年 代 江戸期(年代不明)

歴史(沿革/履歴等) 未詳

内 容 『塵劫記』は吉田光由作の数学書で，寛永4年(1627)に刊行されて以来，江戸時代を通じて300以上の類本が生まれ，数学書の中で最も広く長く普及し，寺子屋などで教科書としても使用された。「塵劫」とは極めて大きい数と極めて小さい数のことで，『塵劫記』とは塵劫たっても変わらない真理の書という意味である。そろばんによる掛け算・割り算，金銀銭貨の売買・両替，利息計算，面積計算，租税計算など実用的な多くの問題が設定されているほか，平方根・立方根，また，からす算・ねずみ算・油分け算など高度な数学知識が必要な計算にまで及ぶ。豊富な挿絵も特徴で，『塵劫記』は算数教科書の代名詞となった。

関連資料 当館所蔵の奥田隆太郎氏収集文書には，広島城下中島本町の世並屋伊兵衛が出版した「増補訂正塵劫記」がある(199806/873)。

検索手段 「広島県立文書館収蔵文書仮目録」

(2015. 4.22 記述/西村 晃)

【目録】

番号	表 題	年 代	作 成	形態	数量
1	〔塵劫記〕		広島はりまや町井筒屋忠八郎， 書林求古齋末田氏	縦冊	1冊